

OSBPI 使用ガイドライン

作成年月日：2018年6月18日

作成者：Japan FRAC OSBPI 作業部会

対象とする有効成分：

FRAC コード	作用機構	グループ名	化学グループ	有効成分名	耐性菌リスク 備考
49	脂質生合成または輸送/細胞膜の構造または機能	OSBPI オキシステロール結合 蛋白質阻害	ピペリジニルチアゾールイキサゾリン	オキサアビピロリン	中～高と推測

作物別使用ガイドライン：

作物	病害	推奨使用回数
ブドウ	べと病	2回以内/作期 単剤は、べと病に効果のある他系統殺菌剤と混用で使用する。
ウリ科野菜	べと病	2回以内/作期 単剤は、べと病に効果のある他系統殺菌剤と混用で使用する。
ジャガイモ トマト	疫病	疫病を対象とする病害の総防除回数の33%以内、または2回以内/作期 (下表参照) 単剤は疫病に効果のある他系統殺菌剤と混用で使用する。
葉菜類	べと病	べと病を対象とする病害の総防除回数の33%以内、または2回以内/作期 (下表参照) 単剤はべと病に効果のある他系統殺菌剤と混用で使用する。

ジャガイモ・トマト：

OSBPI の1作期あたりのジャガイモ・トマト散布ガイドライン表

ジャガイモ・トマト疫病に対する 殺菌剤の総使用回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	≥10
OSBPI の最大使用回数	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2

葉菜類：

OSBPI の1作期あたりの葉菜類散布ガイドライン表

葉菜類べと疫病に対する 殺菌剤の総使用回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	≥10
OSBPI の最大使用回数	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2

留意事項

- \*各薬剤の農薬登録の範囲（使用回数、希釈倍数、散布水量等）で使用する。
- \*予防的に使用する。
- \*OSBPI 剤を連続散布しない。
- \*作用機構の異なる殺菌剤と輪番で使用する。
- \*次作においても、前作からの輪番使用を継続する。
- \*同一圃場における OSBPI の総使用回数は年間6回以内とする。
- \*OSBPI は定植前には使用しない。

注意事項：

- \*本ガイドラインは、耐性菌の発生遅延化を目的としています。

以上